

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 安全・安心、安定した食料確保のために（20分）</p> <p>令和2年4月9日の新婦人新聞によると、新型コロナウイルスの感染拡大で、中国産の野菜の輸入が激減、品薄となり、外国への食料依存の危うさが浮き彫りになる中、産直運動の重要性がますます強まっています。</p> <p>近隣諸国との国境封鎖に踏み切ったドイツでは、「食料供給は大丈夫」とドイツ農業者連盟の代表が言い切っています。その自信の裏には基礎食料の自給率の高さがあります。小麦の自給率117%、ジャガイモ148%、豚肉119%です。日本はどうでしょう。農産物輸入自由化の結果、食料自給率37%、牛肉と豚肉は36%と48%、米さえ100%自給ができない日本は「大丈夫」と言えるのでしょうか。コロナパニックで浮き彫りになった日本の危うい現実です。</p> <p>あらゆる分野で「持続可能性」を求めるSDGsの17の目標の12番「つくる責任、つかう責任」は、安全でおいしい食べ物づくりに励む日本の農民や農村を支援し、消費を支える産直運動と大きく重なると述べています。</p> <p>どんなに遠く、どんな方法で生産しても、食料は安い所から運ばばいいという安倍政権の自由貿易の考えは危険です。</p> <p>鶴ヶ島市都市農業振興計画（令和2年3月発行）には、鶴ヶ島の強みを活かした農業振興をうたっています。安全・安心の食料確保の期待をもって、以下、質問します。</p> <p>(1) 鶴ヶ島市の農家戸数は288戸（平成27年）。20年間で202戸41.2%減少しています。その原因はどこにありますか。</p> <p>(2) 鶴ヶ島の農業の強みを活かした農業を発展させるための施策に農業を支える新たな担い手を確保・育成を促進しますと基本方針にありますが、どのように行うのでしょうか。</p> <p>(3) 環境に配慮した新鮮で安全な農産物生産の促進として、特別栽培農産物の生産・消費の促進、有機栽培に取り組む農業者及び農業団体への支援に取り組むとあります。どのように</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>支援し、促進していくのか具体的にお示してください。</p> <p>(4) 学校給食に地場農産物使用割合を10年で20%にする目標ですが、どのように取り組んでいきますか。また、目標値を引き上げることはできませんか。</p> <p>(5) 子どもたちに安全・安心な食べ物を食べさせるため、有機・無農薬栽培、減農薬・減化学肥料栽培の農家と直接契約はできないでしょうか。</p> <p>2 地球温暖化に歯止めを (20分)</p> <p>世界中で異常気象が頻発し、台風、豪雨、夏の酷暑、冬は暖冬などによって、私たちの暮らしや経済活動は深刻な脅威にさらされています。また、生物多様性への影響が懸念されています。「気候非常事態宣言」が世界で広がっています。</p> <p>温暖化を防止し、自然と共存、共生することが人間の生き延びる道であるといえます。世界は、脱原発と脱炭素社会に向かっていきます。日本も原発の再稼働や石炭火力発電の新增設をやめ、再生可能エネルギーの飛躍的な向上をめざさなくてはなりません。日本政府の温暖化対策は、パリ協定が求める水準に比べあまりにも低すぎます。</p> <p>政府の姿勢を変えるためにも、地方から再生可能エネルギーへの転換促進や地産地消を図る必要があると思います。</p> <p>(1) 夏の盛りに街路樹の枝が切り落とされ、木陰のない状態になっています。温暖化を防ぐ上でも、歩行者の陽射しを遮るためにも、夏の剪定・伐採はやめていただきたいという声があります。</p> <p>また、若葉駅西口から脚折町への道路は歩道も広く安全ですが、街路樹がありません。真夏に駅まで歩くのが大変だという声があります。なぜ、夏の盛りに街路樹を切るのでしょうか。</p> <p>(2) 公共施設の電力をすべて再生可能エネルギーにする目標を掲げている自治体があります。鶴ヶ島市でも公共施設の電力を再生可能エネルギーで賄う計画が必要と思いますが、い</p>	<p>市長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>かがですか。</p> <p>(3) 市として、電気自動車や太陽光発電システムの普及の目標はあるのでしょうか。</p>	